

規格外品のかぼちゃを海外へ 農産物生産組合あっさぶ農匠(厚沢部町)



【取組の経緯】

- ◆「さがらマロン」(品種名:九重栗イレブン)のブランド化を目指し7戸の農家で栽培開始
- ◆人口減少と高齢化により国内消費量は低迷
- ◆国内需要は「4~8玉/10kg」が主流、「9玉/10kg」以下の規格外品の有効活用が課題
- ◆海外市場は小玉のかぼちゃを好む傾向

- ◆2017年(平成29年)香港で試験的に販売
- ◆2019年(令和元年)から香港に加えシンガポールに輸出開始

【組織等の概要】

- 代表者:相良 一之
- 構成員:11名
- 輸出品目:かぼちゃ、かぼちゃ加工品

【取組と成果】

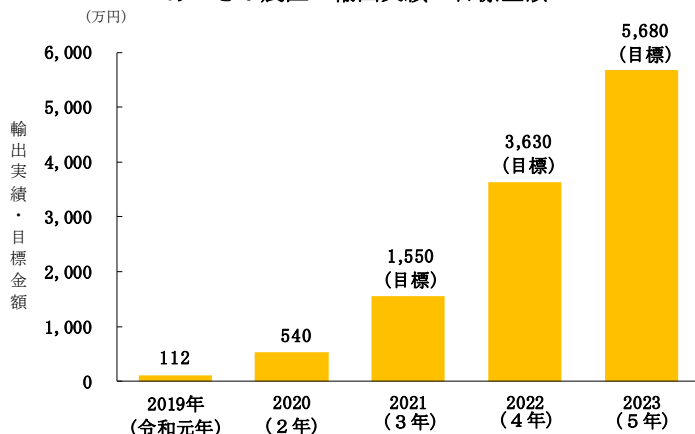
- 長期保存できる品種と貯蔵施設の整備による販売期間の長期化
- GLOBAL GAPの認証により輸出手続きがスムーズに
- 海外市場パートナーとの商流連携を強化



長期保管実証実験

2020年(令和2年)の輸出実績は540万円で、シンガポール、マレーシア、香港、台湾に輸出、2019年(令和元年)に比べ約5倍と大幅に増加

あっさぶ農匠の輸出実績・目標金額



注: 2019年及び2020年は輸出実績金額である。

出典: あっさぶ農匠から聞き取り作成

【今後の展望】

- 輸出向けの生産量を確保するため、構成農家におけるGAP認証の取得を促進
- 通年出荷体制を構築するため、生鮮商品として利用できないかぼちゃを原料としたペーストの商品化
- GFPグローバル産地づくり推進事業を通じて農業の収益性を向上
- マーケットインによる商品を開発

2023年(令和5年)に輸出目標金額5,680万円を目指す